10 I I I I I	各上業局等	等専門学校	交 開講年度 令和02年度	(2020年度)	授	業科目	オペレー	ティング	システム	
14日季	礎情報									
科目番号		0041		科目区分		専門 / 必	 佟			
<u></u> 受業形態		講義		単位の種別と単	位数	学修単位:				
文本/// //// 開設学科		情報工	· 学分野	対象学年	<u> </u>	4				
開設期		後期	1 /1 1	週時間数	2					
	wL 1 1		・河野健 ^一 オペレーティングシスラ		, <u> </u>				(アスキー)・	
教科書/教		平田豊	Linuxカーネル解析入門[増補版]	(工学社)	:ムの仕組み(朝倉書店) 参考書:蒲地輝尚 はじめて読む486(アスキー)・ (工学社)					
担当教員		林 裕樹	j							
到達目			1 197 0 1 11 1							
プロセス 反想メモ	制御の仕組	みがわかる 仕組みがわ								
レーブ	リック									
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レー	ベルのF	======================================	未到達し	<u>ベルの目安</u>		
平価項目	1		オペレーティングシステムの基	本 オペレーティン	オペレーティングシステムの基本			オペレーティングシステムの基本		
			概念と実装を説明できる。 プロセス制御の仕組みと実装をi	概念を説明でき プロセス制御の	引できる。 御の原理を説明できる		概念がわからない。			
平価項目	2		明できる。	٥	プロピス制御の原理を説明できる			プロセス制御が何かわからない。		
評価項目3			仮想メモリの仕組みと実装を説 できる。	仮想メモリの仕組みと実装を説明 できる。 仮想メモリの原理			仮想メモリの機能がわからな		からない。	
			ファイルシステムの仕組みとデータ構造などの実装を説明できる。	ー ファイルシステ. 理解できる	ファイルシステムの原理と意義を			ファイルシステムの機能がわから		
	刘李口福	百口 レル!	•	。 理解できる。			ない。			
	育到達度目	<u>項目との</u> 標 D	关//术							
教育方:										
既要		とする。 とがで 講義形	めるとともに、システム上で動作する 。また、プログラミング言語の授業で きる。 式で授業を行う。今までの実習等で扱	で自分で作成したアプ	<u> </u>	ションがど	のように動	作していたの	かを知るこ	
受業の進	め方・方法	理解を また判 ここと ここと に い に い に い に い に い に れ に れ に れ い れ い れ	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適宜レポート設定は、2回の定期試験(100点満点)の経価は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範閣する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムが1 すると。 Lで合格 0%の評	ユーザから よい。 §とする。 呼価を加え	見えないと こ総合評価。	ころで行って とする。	いる制御の	
受業の進	め方・方法	理ま合最再条前後期後	点から一通り理解しておくことで、フ 助けるので、普段からシステムの動作 章ごとなどの区切りで適宜レポート設 定は、2回の定期試験(100点満点)の 価は、2回の定期試験の結果の平均に は、60点未満であった定期試験の範値 する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン 科目:情報工学実験Ⅱ・卒業研究	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、 ノパイラ	テムがこ すると。 とで合格 0%の評 出題し	ユーザから よい。 るとする。 呼価を加えか た問題にこ	見えないと こ総合評価で いて60%よ	ころで行って <u>と</u> する。 以上得点する。	ことを合格の	
受業の進 上意点	め方・方法	理ま合最再条前後オペースを、判評験と連連レ	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適宜レポート設定は、2回の定期試験(100点満点)の経価は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範閣する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがごすると。 とで合格 0%の記 出題し	ユーザから よい。 るとする。 呼価を加えが た問題につ	見えないと こ総合評価 c いて60% り	ころで行って とする。 (上得点する。 フェイスの必	ことを合格の	
注意点		理ま合最再条前後オペースを、判評験と連連レ	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適宜レポート設定は、2回の定期試験(100点満点)の流は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究 ーティングシステムの動作の仕組みを	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがごすると。 とで合格 0%の記 出題し	ユーザから よい。 るとする。 呼価を加えが た問題につ	見えないと こ総合評価 c いて60% り	ころで行って とする。 (上得点する。 フェイスの必	ことを合格の	
注意点		理ま合最再条前後、オて、料評験と連連しる	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章にとなどの区切りで適した。 定は、2回の定期試験(100点満点)の結価は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範則する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験I・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがよると、とのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	ユーザから よい。 みとする。 呼価を加えが た問題につ るシステム るシステムに	見えないと こ総合評価。 いて60%以 のインター するとよい	ころで行って とする。 (上得点する。 フェイスの必	ことを合格の	
意点		理解た否終試件関関ペくる	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章でとなどの区切りで適宜レポート詩定は、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験I・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがですると、 とで合格のの部と とで合格のである。 とで合格のである。 で合格のである。 で合格のである。 で合格のである。 で合格のである。 で合格のである。 でのでのである。 でのでのである。 でのでのでのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	ユーザから よい。 A とする。 P 価を加えた た問題につ るシステムに の到達目標 ウェアの様	見えないと に総合評価 いて60% いて60% りのインター するとよい	ころで行って とする。 (上得点する。 フェイスの必	ことを合格の	
意点		理ま合最再条前後オで、判評験と連連レる。	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適宜レポート詩章には、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範別する。 科目:情報工学実験II・卒業研究 ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作 授業内容 オペレーティングシステムの役割	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがと。 との名のでの記し とのののででである。 とのでの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででの記し ででいる。 ででいる。 ででの記し ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。	ユーザから よい。 なとする。 呼価を加えた た問題につ シススラに の到達目標 ウェアの権 明できる	見えないと こ総合評価。 いて60%以 のインター するとよい	ころで行って とする。 人上得点する。 フェイスの必。 ・ ・ ・ ・ ・	ことを合格の 然性が見え	
意点		理ま合品 再条前後 オペく 過 1 週 2 週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適宜レポートの動作章ごとなどの医切りで適宜レポートのには、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範別する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 オペレーティングシステムの役割 I/Oデバイスと割込み	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがご とで合格 の%の診し って意識 で高さ の光題 で高さ のがの診し であいる であいる であいる であいる であいる では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ユーザから よい。 るとする。 ア価を加えた 関題につ シスよう ウェーション できる でする できる	見えないと に総合評価 でいて60% のインター するとよい なまなと がま はんとオペレ 御と動作の の	ころで行って とする。 人上得点する。 フェイスの必。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ことを合格の 然性が見え	
意点		理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章でとなどの区切りで適宜レポート事章には、2回の定期試験(100点満点)の紙値は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲す科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験I・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 「授業内容」 「投業内容」 「投業内容」 「対して、と割込み」 「プロセスとスレッド(1)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムがと。 とで合格の の の の の の の の の の の の の の の の の の う 。 で う 。 う に う に う に う に う に う に う に う に う に	ユーザから よい。 るとする。 ながた問題につ るする の到達アのる ウェできの制 プロセスの プロセスの プロセスの	見えないと こ総合評価はいて60%以 のインターするとよい 「誠成とオペレ 御と動作の 動作原理が	ころで行って とする。 以上得点する。 フェイスの必。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ことを合格の 然性が見え	
意点		理解を、判評験と連連 イス 週 1週 2週 3週 4週	点から一通り理解しておくことで、アカリスの動作者できなどの区切りで適宜レポート意定は、2回の定期試験(100点満点)の紙値は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 対判目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 「授業内容」 「大学・アイングシステムの役割」 「グデバイスと割込み」プロセスとスレッド(1) プロセスとスレッド(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テムな で 合格 で の 出	ユーザから よい。 るとする。 ア価を題につ るするように の到達アのる ウェできる パーセスの プロセスの プロセスの ス切替えの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの スプロゼスの	見えないと こ総合評価はいて60%以 のインター するとよい は成とオペレ 御と動作の 動作原理が 動作原理が 動作原理が	ころで行って とする。 く上得点する。 フェイスの必。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ことを合格の 然性が見え	
意点	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章でとなどの区切りで適宜レポート事章には、2回の定期試験(100点満点)の紙値は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲す科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験I・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 「授業内容」 「投業内容」 「投業内容」 「対して、と割込み」 「プロセスとスレッド(1)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テすす との出 の との と	ユーザから よい。 とする。。 P価問題につ シるよ フェできるの ウェできのも プロセスス アカロロマン アカロマン アカロマ アカロマ アカロマ アカロマ アカロマ アカロマ アカロマ アカロマ	見えないと こ総合評価でいて60%以 のインターでするとよい 脚と動作の 動作原理が 大スの違いが	ころで行って とする。 人上得点する。 フェイスの必。 イーティングシ 原理が説明で 説明できる 説明できる 説明できる	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる	
意点	画	理解を、判評験と連連 イス 週 1週 2週 3週 4週	点から一通り理解しておくことで、アカリスの動作者できなどの区切りで適宜レポート意定は、2回の定期試験(100点満点)の紙値は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 対判目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 「授業内容」 「大学・アイングシステムの役割」 「グデバイスと割込み」プロセスとスレッド(1) プロセスとスレッド(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす と 1 で 2 で 3 で 3 で 4 で 4 で 5 で 4 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5	ユーザい。 は、とすを加ました。 を作用にして、 を作用にして、 シストランのでは、アーのでは、アーのでは、アーのでは、アーのでは、アーのでは、アーのでは、アーのでは、アーので	見えないと こ総合評価でいて60%以 のインターでするとよい 脚と動作の 動作原理が 大スの違いが	ころで行って とする。 く上得点する。 フェイスの必。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる	
意点	画	理ま合最再条前後 オて 週 11週 3週 4週 5週 6週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章でとなどの区切りで適口の高点点)の様は、2回の定期試験(100点満点)の様は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 オペレーティングシステムの役割 I/Oデバイスと割込み プロセスとスレッド(1) プロセスとスレッド(2) プロセスとスレッド(3) スケジューリング(1)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす と での出 っを 週 八割 「アリン ロ でののし い識 ご 一が デチセッ せる	ユーザから とする。 ア価問題にこう シるよう の到まできるのえの カリッでオーローで フロリックで フローマックで フローマックで フローマックで フローマックで フローマックで スターフで フローマックで スターフで フローマックで スターフで スターフで フローマックで スターフで スターフで フローマックで スターフで フローマックで スターフで スター スター スター スター スター スター スター スター スター スター	見えないと こ総合評価でいて60%以 のインターでするとよい 脚上動作原理が 動作原理が こスの違いが 移とスケジ	ころで行って とする。 人上する。 フェイスの必 でディングラ 原理が説明で 説明できる 説明できる コーリングの	ことを合格の 然性が見え ンステムの役 きる	
意点	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 3週 3週 5週 6週 7週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作音でとなどの区切りで適点に、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範疇する。 科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容 「投業内容」 「グデバイスと割込み」プロセスとスレッド(1) 「プロセスとスレッド(2) 「プロセスとスレッド(3) スケジューリング(1) スケジューリング(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす と での出 っを 週 八割 「アリン ロ でののし い識 ご 一が デチセッ せる	ユーザから よい。 なとする加に を	見えないと こ総合評価でいて60%以 のインターでするとよい 脚上動作原理が 動作原理が こスの違いが 移とスケジ	ころで行って とする。 人上得点する。 フェイスの必。 イーティングシ 原理が説明で 説明できる 説明できる 説明できる	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる	
意点受業計	画	理ま合 最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	点から一通り理解しておくことで、フ助けるので、一通り理解しておくことで、フ助けるので、普段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適口レポートのには、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 科目:計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究 ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作 授業内容 オペレーティングシステムの役割 I/Oデバイスと割込み プロセスとスレッド(1) プロセスとスレッド(2) プロセスとスレッド(3) スケジューリング(1) スケジューリング(2) 後期中間試験を実施する	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす と 0 出 っを 週 八割 I/O ル ロ と つき ケーク アライ	ユーザい。 ない。 る。えいでは、 アード では、 アード では、	見えないと こ総合評価でいて60%以 のすると よい かり	ころで行って とする。 人上する。 フェイスの必 でディングラ 原理が説明で 説明できる 説明できる コーリングの	ことを合格の 然性が見え ンステムの役 きる	
E意点 受 業計	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	点から一通り理解しておくことで、フカリスの一角り理解しておくことで、フカリスの一角ので、一ト時でごとなどの区切りで適点に、100点満点)の後に、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ークで、授業で学んだ内容と実際に操作を受けるで、授業で学んだ内容と実際に操作を受けるで、クラステムの役割 「ハーティングシステムの役割」 「ハーティングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイング(2) プロセスとスレッド(3) スケジューリング(2) 後期中間試験を実施する 相互排除と同期(1)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす 上 0 出 っを 週 八割 I/マ プス プでス 競るがと 合格別し い識 と ド説 デチセッセる ジ 状	ユーザい。 る。	見えないと に総合評価でいて60%以 のすると よい のすると オペレの 動作原理が かまなと スターい でいる と 動作原理が かまなと スケシ での評価 できます できます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はい	ころで行って とする。 人上する。 フェイスの必 ・	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる D動作が説明 できる	
意点受業計	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	点から一通り理解しておくことで、対けるので、一通り理解しておくことで、対けるので、一番段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適口レポートのには、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容オペレーティングシステムの役割I/Oデバイスと割込みプロセスとスレッド(1)プロセスとスレッド(1)プロセスとスレッド(2)プロセスとスレッド(3)スケジューリング(1)スケジューリング(2)後期中間試験を実施する相互排除と同期(1)相互排除と同期(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす 上 0 出 っを 週 八割 I/マ プ ス プでス 競る 相互がと 合格記し い識 と ド説 デ チ セ ッ セる ジ 状 排	ユーい。 るす の ウ明 (イプス ドス ユー 態 除ア) は アランス と で スセ 替 プ 状 リン 発 エ で ス セ 替 プ 状 リン 発 エ で ス セ 替 プ 火 リン 発 エ リア の ア ル ブ ス ド ス ユー の ア ル ゴ と の ア ル ゴ と の ア ル ゴ と の ア ル ゴ と の ア ル ゴ と の ア ル ゴ と か と の ア ル ゴ と か と の ア ル ゴ と か と か と か と か と か と か と か と か と か と	見えないと に総合ののす のすると よい のすると よい かり	ころで行って はする。 フェイスの必 フェイスの必 ・ーティングラ 京理が説明できる 説明できる 説明できる ・ューリングの 装方法が説明できるが説明できるが説明できる。	ことを合格の 会然性が見え システムの役 きる D動作が説明 できる 生が説明でき	
E意点 受 業計	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	点から一通り理解しておくことで、フカリスの一角り理解しておくことで、フカリスの一角ので、一ト時でごとなどの区切りで適点に、100点満点)の後に、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。 計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ークで、授業で学んだ内容と実際に操作を受けるで、授業で学んだ内容と実際に操作を受けるで、クラステムの役割 「ハーティングシステムの役割」 「ハーティングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイングシステムの役割」 「カー・ファイング(2) プロセスとスレッド(3) スケジューリング(2) 後期中間試験を実施する 相互排除と同期(1)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす 上 0 出 っを 週 八割 I/マ プ ス プで ス 競る 相 相象小る 一 合 で の の 見	ユよい また こう で つり明 で プス ドス ユ 態 除 除れた いっぱい また で こう で ス セ 替 プ 状 リ 発 ル た操 アラ の フ の カ の ア の た か の カ の か の か の か の か の か の か の か の か の	見えないと に	ころで行って とする。 フェイスの必 ・ 一ティングラ 京理明でできる 説明できるる。 説明できるる。 説明できるる。 説明できるる。 、対象を表する。 、対象を、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	ことを合格の 会然性が見え システムの役 きる り動作が説明 できる シクなどの抽	
意点受業計	画	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	点から一通り理解しておくことで、対けるので、一通り理解しておくことで、対けるので、一番段からシステムの動作章ごとなどの区切りで適口レポートのには、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲する。計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業研究ーティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作授業内容オペレーティングシステムの役割I/Oデバイスと割込みプロセスとスレッド(1)プロセスとスレッド(1)プロセスとスレッド(2)プロセスとスレッド(3)スケジューリング(1)スケジューリング(2)後期中間試験を実施する相互排除と同期(1)相互排除と同期(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす 上の出 っを 週 八割 I/マ プ ス プでス 競る 相 相象 王ムる で%題 て意 ごーがの ルロレロきケ 合 互 気化しがと 合格記し い識 と ド説 デチセッセる ジー状 排 排さっ	ユよい まで で プスドス ユ 態 除れなどの から まず の つ明 、 プスドス ユ 態 除れなどが まず から	見えないと に	ころで行って してする。 ってする。 ったまで行ってでする。 ったまでででででできる。 説明でできる。 説明でできる。 説明でできる。 説明でできる。 説明できる。 説明できる。 にはいまする。 にはいまする。 にはいまする。	ことを合格の 会然性が見え システムの役 きる り動作が説明 できる シクなどの抽	
	画 3rdQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	点から一通り理解しておくことで、対けるので、の世間ないられて、ステムの動作者であったの区切りで適点に、2回の定期試験の結果の平均には、40点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であったで期間には、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期は、60点未満であった。計算機制御・計算機下の工作のでは、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界では、	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす L O 出 っを 週 八割 I/マ プ ス プで ス 競る 相 相象 モ相ムる で%題 て意 ご ーが O ル ロ レ 口き ケ 合 互 互化 二互がと 合格引し い識 と ド説 デ チ セ ッ セる ジ 状 排 排さ 夕排	ユよい を	見えないと かく のす で で と かい で と がい が い が い が い が い が い が い が い が い が	ころで行って とする。 フェイスの必 クーティングラ 京理明でできる。 説説明でできる。 説説明でできるができる。 、表方の必 制御のできる。 、はまる。 はまる。 はまる。 はまる。 はいまする。 はいまる。	ことを合格の 然性が見え ・	
E意点 受 業計	画 3rdQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 12週 12週 12週 12週 12週 12週 12週 12	点から一通り理解しておくことで、対けるので、回り理解しておくステムの動作音段からるので、の区切りで適したボールの動作でとなどの区切りで適したボールのには、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲が対して、2回の定期試験のには、60点未満であった定期試験の範囲が対して、2回の定期試験のを関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす 上0出 っを 週 八割 I/マ プス プでス 競る 相 相象 モ相 メムる で%題 て意 ごーが O ルロレロき ケー合 互 互化 二互 モがと 合格記し い識 と ド説 デチセッセる ジー状 排 排さ 夕排 リ	ユよい を	見えないと かく のす で で と かい で と がい が い が い が い が い が い が い が い が い が	ころで行って しょく しょく しょく こうで行って しょく こうで行って こうで こうで こうで こうで こうで こうで ご いっこう こう こ	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる シカかに対明できる シクなどの抽 にごきる	
意点受業計	画 3rdQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 113週 113週 113週 113週 113週 1	点から一通り理解しておくことで、対けるので、の世間ないられて、ステムの動作者であったの区切りで適点に、2回の定期試験の結果の平均には、40点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であったで期間には、60点未満であった定期試験の範囲は、60点未満であった定期は、60点未満であった。計算機制御・計算機下の工作のでは、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界で学んだ内容と実際に操作をでき、20世界では、	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす L O 出	ユよい A March	見えない です では かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ころで行って しょく しょく しょく こうで行って しょく こうで行って こうで こうで こうで こうで こうで こうで ご いっこう こう こ	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる の動作が説明 可できるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが	
意点受業計	画 3rdQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 週 11週 2週 3週 4週 11週 11週 113週 113週 113週 113週 113週	点から一通り理解しておくことで、対けるので、回り理解しておくステムの動作音段からシステムの動作音段からシステムの動作意ととで、ので、回りで適けりで適けした。 2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の範囲がある。 計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験 II・卒業研究 一ティングシステムの動作の仕組みをので、授業で学んだ内容と実際に操作 授業内容 オペレーティングシステムの役割 I/Oデバイスと割込み プロセスとスレッド(1) プロセスとスレッド(2) プロセスとスレッド(3) スケジューリング(1) スケジューリング(2) 後期中間試験を実施する 相互排除と同期(1) 相互排除と同期(2) 相互排除と同期(3) 相互排除と同期(4) メモリ管理と仮想記憶(1) メモリ管理と仮想記憶(2)	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす L O 出	ユよい A March	見えない です では かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ころで行って しょう で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる の動作が説明 可できるとのが にもるとのが にもるとのが	
意点 受 業 計	画 3rdQ 4thQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 16週 15週 16週 15週 16週 15週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16	点から一通り理解しておくことで、対けるので、でで、図切りで適となどのの動作ででは、2回の定期試験(100点満点)の循は、2回の定期試験の結果の平均には、60点未満であった定期試験の新聞きる。計算機制御・計算機方式・コン科目:情報工学実験II・卒業内容ので、授業内容と表に内容と実際に操作を表して、クライスととのでで、投業内容を表して、クライスととのでで、対して、クライスととないでは、クライスとスレッド(1)プロセスとスレッド(1)プロセスとスレッド(2)プロセスとスレッド(3)スケジューリング(2)後期中間試験を実施する相互排除と同期(1)相互排除と同期(1)相互排除と同期(2)相互排除と同期(3)オモリ管理と仮想記憶(1)メモリ管理と仮想記憶(2)ファイルシステム後期未試験を実施する	↑ペレーティングシス Fに着目しながら操作 課題を課す。 結果の平均が60点以」 レポート等による±1 囲それぞれに対して、	テす L O 出	ユよい A March	見えない です では かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ころで行って しょう で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる の動作が説明 可できるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが にできるとのが	
注意点 受業計1	画 3rdQ 4thQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 10週 11週 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11	点から一通の理解してシステムの動作されているので、のでの回りででの区切りで適となどのした。 2回の定期試験の結果のには、2回の定期試験の結果のには、2回の定期試験の結果のには、60点未満であった定期試験の結果のでで、ので、で、一点のででででができまりでで、のでで、一点のででででででででで、一点のでででででででで、一点のでででででででででで	イペレーティングシス Fに着目しながら操作 群題を課す。が60点以 レポート等による±1 囲それぞれに対して、 ハパイラ 空知ることで、普段扱 正知ることで、一部であります。	テす L O 出	ユよい A March	見えない です では かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ころで行って は する。	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる D動作が説明できる シクなどの抽 をごきる	
:意点 受 業 計	画 3rdQ 4thQ	理ま合最再条前後 オて 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 10週 11週 11週 113週 113週 115週 115週 115週 115週	点から一通り理解しておくステムの動作	イペレーティングシス Fに着目しながら操作 群題を課す。が60点以 レポート等による±1 囲それぞれに対して、 ハパイラ 空知ることで、普段扱 正知ることで、一部であります。	テす L O 出	ユよい A March	見えない です では かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ころで行って しょう で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ことを合格の 然性が見え システムの役 きる の動作が説明 可できる できるとの付 にできるとの付 にできるとの付 にできるとの付	

			与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる 。				説明できる	1	
			同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在 しうることを説明できる。				ズムが存在	1	
			整列、探	索など、基本的なア	ルゴリズムにつ	いて説明	できる。 4	1	
			時間計算量によってアルゴリズムを比較・評価できることを説明 できる。				ことを説明	1	
			領域計算 説明でき	量などによってアル る。	ゴリズムを比較	・評価で	きることを	1	
			コンピュ エーショ	ータ内部でデータを ンがあることを説明	表現する方法(テ できる。	ータ構造	き)にはバリ 4	1	
				題に対し、選択した ることを説明できる		ってアル	ゴリズムが	1	
			リスト構造、スタック、キュー、木構造などの基本的なデータ構造の概念と操作を説明できる。					1	
			ソースプログラムを解析することにより、計算量等のさまざまな観点から評価できる。				さまざまな	1	
			同じ問題を解決する複数のプログラムを計算量等の観点から比較できる。					1	
			コンピュータを構成する基本的な要素の役割とこれらの間でのデータの流れを説明できる。					1	
			プロセッサを実現するために考案された主要な技術を説明できる。				説明できる	1	
		計算機工学	メモリシステムを実現するために考案された主要な技術を説明できる。				術を説明で	1	
			入出力を実現するために考案された主要な技術を説明できる。					1	
			コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて説明 できる。					1	
			コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置 づけを説明できる。				テムの位置	1	
		システムプログラム	プロセス管理やスケジューリングなどCPUの仮想化について説明できる。				ついて説明	1	
			排他制御の基本的な考え方について説明できる。			4	1		
			記憶管理の基本的な考え方について説明できる。				4	1	
		スの他の学	コンピュータウィルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。					1	
		その他の学 習内容	コンピュータを扱っている際に遭遇しうる脅威に対する対策例に ついて説明できる。						
== /==+··· ^			基本的な	アクセス制御技術に	ついて説明でき	る。	4	1	
評価割合		- I			T	- 1 -		1	
W 0 - T - 1 0	試験	発表		相互評価	態度		<u>ートフォリオ</u>	合計	
総合評価割合	100	0		0	0	0		100	
基礎的能力	0	0		0	0	0		0	
専門的能力	100	0		0	0	0		100	
分野横断的能力	0	0		0	0	0		0	